

「本気」

校長 前田 達彦

先般、3月1日の卒業式で、皆さんの先輩である3年生を送りました。島農卒業生127名は、今後はそれぞれの道に進み、それぞれの場所から母校のことや、後輩である皆さんの事を思い、支えてくれることでしょう。

来年度に向けて皆さんに期待したいことのひとつとして、次の言葉を伝えます。それは、「本気」ということです。一年中、すべてのことに対して「本気」になろう、とはいいません。毎日、本気の連続は、気が休まらず、疲れてきつてかえって本気になれないかもしれません。ただ、4月から新年度になり、ひとつ上の学年に進級する皆さんは、ひとつ大人になり、それに見合った成長をしていかなければなりません。そこで、「ここぞという時」「これはという時」に「本気」で取



組んでほしいと思うのです。それぞれ、本気の出どころは違っていいと思います。例えば、日頃の学習であったり、部活動であったり、学校行事であったり、4月からの1年間で、少なくとも2つか3つの目標に向かって、本気で取組んでほしいと期待しています。

楽天の創業者であり社長でもある 三木谷 浩史 さんは、「本気で取組んで解決できない問題など、この世には存在しない」と言い切るほど「本気」の大切さを説いています。元テニスプレイヤーの 松岡 修造 さんは、「勝ち負けなんてちっぽけなこと。大事なのは本気だったかどうかである」と言っています。他にも、誰の言葉かわかりませんが、「本気の失敗には価値がある」とか「本気の人に神様は優しい」とか、何かに対して「本気」で向き合うことの大切さを伝える言葉はたくさんあるようです。それぞれ、3年生・2年生になるにあたって、「本気」という言葉を意識して「考動」してみてください。

最後にもうひとつ。いつも話していることの繰り返しですが、動物や植物の命を教材として学ぶ農業高校生である皆さんは、それぞれ「命」について深く考える視点があるはずです。自分の命を大切にし、人の命も同じように大切にしてほしい。いじめや嫌がらせ、暴力や暴言などで、人の生きる力や気力を失うような状況に追い込むということが、私たちの身近で決してあってはなりません。ちょっとした行き違いで、人が死ぬことを考えるほどに傷つける事があるかもしれません。逆にちょっとした気遣いや優しさで大切な命が救われるかもしれません。自身で悩んで思いつめることもあるかもしれませんが、あなたの命は決してあなただけのものではありませんから、そういう時こそ誰かに相談してください、そして乗り越えてください。そういったことをお互いに意識しあい、声を掛け合い、明るく楽しい島農であり続けましょう。

生徒の皆さん、先生方が、そろって元気に「新学期」を迎えられるよう期待します。

(第3学期終業式 校長訓話より抜粋)